

はだの歴史博物館 令和5年度 企画展

秦野の年中行事

令和5年4月1日(土)～5月28日(日)



はじめに

横野の獅子舞（令和2(2020)年）

令和2(2020)年に拡大した新型コロナウイルス感染症のため、数々の行事が中止されました。丹沢まつりや秦野たばこ祭といった、市を挙げての大きなイベントだけでなく、「瓜生野百八松明」や「瓜生野盆踊り」など、市の無形民俗文化財に指定されている行事や自治会単位の行事も中止が相次ぎました。

令和4(2022)年に、やや状況は改善されてきたものの、中止期間の影

響は大きかったようで、今年の小正月行事を見る限りでは規模の縮小や参加者の減少が目立ちました。

秦野市内の年中行事については、昭和62(1987)年に刊行された『秦野市史 別巻 民俗編』に詳しくまとめられており、この際に撮影された貴重な写真が遺されています。

今回の展示では、こうした写真や史料を用いて、年中行事のかつての姿をたどっていきます。

一月（睦月）

仕事初め

「書初め」などのように、正月になってから初めて行う仕事に「初（そめ）」を付けて儀礼的に行う行事があります。

「ない初め」は、縄を一房なって神棚に上げる行事で、かつての農家では縄は必需品でした。

「ウナイゾメ」は、その年の豊作を祝う行事です。朝、「一文飾り」と呼ばれる、結んだわらを上半分だけ編み、紙垂（しで）を垂らしただけの簡単な飾りを持って恵方（その年の福德をつかさどる神がいるとされる方角）にあたる畑に行き、北に向けて埋め、酒をそのあたりに振り撒き米を供えます。その後、クワで2度ほど土を軽く掘り返します。



ウナイゾメ（横野）
昭和 60(1985)年頃

七草

5日、あるいは6日に恵方にあたる山野でセリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベ、タビラコ、スズナ（カブ）、スズシロ（大根）を採ってきます。実際に全部そろえることは難しく、無いものについては採るまねだけして済ませた

そうです。

6日の晩、木鉢の上にまな板をのせ、杓文字と播粉木などの台所用具で七草を叩きながら「七草ナズナ 唐土の鳥と日本の鳥と 渡らぬ先に 合わせてバツタバツタ」と唱え、7日の朝にこれを入れた粥を炊き神棚に供えました。

小正月

秦野地方では子供を中心とした道祖神祭りと団子焼き行事が広い範囲で行われています。

13日にナラ（クヌギやカシの場合もあります）の枝を立て、小枝に団子を刺したものを座敷に飾ります。

14日には菖蒲、波多川、横野などで獅子舞を先頭に家々を廻り、お札を配る行事があります。また、団子焼きは市域で広く行われており、正月飾りや煤掃きの竹、ダルマなどを燃やしてその火で団子を焼きます。



団子焼き（八沢） 昭和 46(1971)年

恵比寿講

20日に農家の家業繁盛を願う農家の恵比寿講で、神棚の恵比寿・大黒の像を下ろして床の間に飾って尾頭付

きの鯛や蕎麦を供えた行事で、『市史別巻 民俗編』では横野や蓑毛などの例が紹介されています。

二月（如月）

節分

昭和の終わりから平成の初め頃、二月の節分の時期になると市役所の本庁舎1階の受付周辺で本町幼稚園の園児を招いて豆まきをしていました。当時の写真を見ると、市の職員が手作りの被り物で鬼を演じています。



本庁舎1階での豆まき 平成元（1989）年

また、空気が乾燥する時期なので火災予防と組み合わせて「防火豆まき」を行った施設もあったようです。

初午

2月に入って最初の午の日に行われる祭礼で、稲荷の祭礼と合わせて行われます。

市内で最も賑わうのは白笹稲荷神社で、戦前にも絵葉書が発行されていました。初午祭当日は、五穀豊穰、商売繁盛、家内安全を祈願して社殿の前に立てられた笹に、たくさんの油揚げが吊るされます。



白笹稲荷初午祭（今泉） 昭和44（1969）年

三月（弥生）

社日

春分の日に近い戌の日を「社日」と呼び、この日は耕作地の神様である「地神」を祀るため農作業を休み「天社神」に赤飯を供えました。

農家ではかつて「地神講」が結ばれていて、講中一同が当番の家に集まって祝い事をしていました。



退化した社日のお供え（堀川）

平成27（2015）年

写真は8年前の「社日」に畑の脇で撮影されたものですが、赤飯を入れた「ワラヅト」というお供えが退化したものだと思われます。

四月（卯月）

春祭り



春祭りの神輿（千村）昭和38(1963)年

秦野地方ではどの地域の神社でも4月中に春祭りを行うことが多く、4月になると毎日のようにどこかでお祭りが行われ、御囃子の音が聞こえていました。

五月（皐月）

端午の節句

女の子の成長を祝う桃の節句に対し菖蒲の節句とも言い、男の子の成長を祝う日です。

秦野地域ではかつて、この日に出世凧という「うなり」を付けた大凧をあげる風習がありました。

これにあやかって学校での凧揚げ大会も行われていました。

六月（水無月）

夏越の祓

30日に行うお祓いで、病気や災難から逃れ、夏の期間を無事に過ごす願いが込められた行事です。氏神からお札やヒトガタが配られ、神社では茅の輪くぐりなども行われます。

七月（文月）

お盆

煙草耕作が盛んにおこなわれていた地区（大根、本町地区以外）では農繁期を避けた7月のお盆が多く、屋内に盆棚を飾り家の門前には「辻」という砂盛りを作ります。



辻（本町地区）昭和60(1985)年頃

八月（葉月）

お盆

大根地区と本町地区で行われる月遅れの盆で、行事の内容は他の地域と同じですが、大根地区では瓜生野百八松明（市指定重要文化財）、下大槻百八炬火といった、火をもちいた民俗行事が行われています。



瓜生野百八松明（南矢名）平成 22(2010)年

九月（長月）

十五夜

中秋の名月の日に行われる月見行事です。十五個の饅頭または団子を器に盛り、花瓶にススキの穂5本を刺して野菜や果物、豆腐をお供えします。

十月（神無月）

納付



葉煙草の納付（管屋）昭和 49(1974)年

葉煙草の産地である秦野ならではの大きな行事として、専売公社への葉煙草納付がありました。納付が本格化するのが 10 月で、公社の荷受所では二人の鑑定官の立会いのもと等級が

つけられました。

十一月（霜月）

恵比寿講

1 月 20 日の農家の恵比寿講に対して 11 月 20 日は商家の恵比寿講の日でした。

十二月（師走）

シハスヨウカ（師走八日）



目一つ小僧（渋沢）昭和 60(1985)年頃

8 日の夕方になると、家々では長い竹竿の先に目カゴを逆さにかぶせて玄関口に立てることが行われていました。これは山からやってくる目一つ小僧をカゴの目の多さで退散させるとめだとされています。

目一つ小僧は悪い行いをした子ど

もを病気にするため、その名前を帳面に書いておきますが、その帳面が厚くなり重くて持ち帰れなくなって道祖神に預けます。翌年の1月15日に目一つ小僧が預けた帳面を取りに来ると道祖神は「昨晚の火事で燃えてしまった」と言い、目一つ小僧はあきらめて山に帰ってしまう。

こんな物語が小正月の道祖神行事に伴って語られていました。

現在では目カゴ自体があまり見られない存在となっています。

餅つき



餅つき(渋沢) 昭和60(1985)年頃

正月を迎えるにあたり、かつては餅つきが大きな行事でした。25日から28日までに行なうことが多く、29日は「苦」に通じるというので避けたと言います。

臼と杵を使つての餅つきは昭和30年代まで、どこの家でも本家を中心に家族総出で行っていました。

お飾りづくり

お飾りは一般的に家長が藁をなつて作っていました。お飾りには槌であまり叩かない藁を使用したそうです。

市内各地では遅くとも29日までにお飾りを作り、「一夜飾り」と言つて大晦日に作つたり飾つたりすることを嫌いました。



お飾りづくり(菖蒲) 昭和60(1985)年頃

暮れの市



暮れの市(本町) 昭和60(1985)年頃

本町地区の暮れの市は市内で最後となる31日に開かれます。

「みそか市」と呼ばれ、ダルマ等の縁起物や正月用品が売られます。一夜明ければ新しい年の始まりです。

発行 令和5年4月1日

編集 〒259-1304 神奈川県秦野市堀山下 380-3

はだの歴史博物館 Tel. 0463-87-5542 FAX 0463-87-5794